



2019年夏休みを振り返って

NO.77

全国高校教育模擬国連大会で本校から3ペアが受賞

既に本校公式HPでもご報告しましたが、8月7日～8日に渋谷区のオリンピック記念青少年総合センターで第3回全国高校教育模擬国連大会が開催されました。今回の議題は「国際移住と開発」というテーマで、全国100校の高校から約650名の生徒が集結し、5つの議場に別れて議論が交わされました。本校からは3ペアがエントリーし、見事3ペアとも受賞を勝ち取りました。以下、各ペアから原稿を寄せてもらいましたのでご紹介します。

- | | | | |
|-----|------|--------|---------------------------|
| A議場 | 最優秀賞 | エジプト大使 | 岡本 大輝君・双川 凜生君・小林 恒司君 (高2) |
| B議場 | 優秀賞 | ギリシャ大使 | 野中 浩伸君 (高1) |
| C議場 | 優秀賞 | イギリス大使 | 松田 治之君 (高2)・持田 隼人君 (高1) |



閉会式後にボランティアとして大会運営に関わった中学生も一緒に集合写真

5年1組 小林 恒司、5年5組 双川 凜生、5年6組 岡本 大輝

今回の大会は、普段行われる練習会とは違い、全国の高校生が参加する公式の会議となりました。そのため、参加者の数も多くなり、600人を超え5つの会場に分かれました。

今回、僕たちが話し合った議題は、「国際移住と開発」です。様々な国が参加していることもあり、当然意見の対立が起こります。今回の場合大きな対立として、EU諸国と支援を必要としている国、という風に分かれてしまいました。最終的にその2つのグループは完全合意には至りませんでした。模擬国連では会議の議事録のようなものとして、記録には2種類のみ残ります。公式討議（スピーチ）と決議です。後世の人たちが自分たちの会議を知るすべはその2つに限られ、特に文書が重要です。しかし実際のところ、会議全体では非公式討議という記録に残らない時間がそのほとんどを占めます。非公式討議での議論が白熱し、本来重きを置くべきである決議の文書作成が満足いく形にならないということが模擬国連でよくあります。この会議でもその傾向がありました。文章量の制限を軽視し、各国が譲らず結局まとまらないという結果でした。残念ですね。

しかし一方で、他の大使と比べて浅い会議経験でも、これまでの会議でペアと共有してきた反省点を最大限に生かすことができたと思っています。反省点を生かすことができたのはこれはなんと言っても Classi とペアのおかげです。Classi を使い、振り返りを面倒くさいと思いつつやってきたことは本当に良かったと思っています。ありがとうクラッシー。みんなも一緒にクラッシーを使おう！

この場では感謝しきれませんが、いろいろな人の協力と理解があつてこそこの活動です。ありがとうございました。今後も模擬国連が続いていくように努力し、得たことを還元します。皆さんも一度模擬国連をやってみませんか？



A 議場 非公式討議風景



A 議場 決議案作成風景

4年1組 野中 浩伸

今回このような賞を受賞できたことを大変うれしく思います。私はグローバル部に入部してまだ1年あまりで、この会議は初めて参加する全国規模の大会となりました。

大会当日、議場には海城生は自分だけ、知っている人もあまりいないという孤独感を感じ、緊張しつつも、この状況で自分にできることを最大限やり遂げようと自分を奮い立たせ、会議に臨みました。

模擬国連では、リーダーシップが強力な武器となります。しかし、それだけでは不十分だと私は感じます。強力なリーダーシップを持っていても、周りの大使との協調を欠けば、模擬国連における「良い大使」になることはできないでしょう。

私は、ペアがいない分、他の大使との協力でその穴を埋めようと努力しました。自分たちのスタンスを丁寧に説明し、理解を求めたり、議論において行かれる人が出ないように努めました。日頃から意識している、「みんなで会議を作っていく」会議行動が功を奏したのかもしれませんが。

最後に、アドバイスを下さった先輩方、引率の先生、そして事前準備でご協力頂いたペアの小沢先輩に感謝申し上げます。



B議場
非公式討議風景

ペアを組んでいた生徒が発熱で欠場となったためこの議場では単での出場となりました。

5年3組 松田 治之、4年6組 持田 隼人

今回、私たちは移民問題を議題として、C議場でイギリス大使を担当しました。EU離脱問題で移民への待遇が論点として挙げられたこともあり、関連性の高い議題でした。イギリスはもともと移民社会であり、多様な背景を持つ人々が暮らしています。他方、今後さらに移民を受け入れていくことについては、経済面や雇用面などでの懸念から、慎重にならざるを得ない状況です。

このような条件から我々が建てた政策としては、移民流入による影響がどれほどなのか適切に把握することや、先進国に入ってきた移民が最終的に母国の経済発展に貢献できるように移民の帰還を推進する、などがあります。これによって移民が一部の国だけの利益とならず、国際的に利益を生み出す存在となるようにしたい、と考えました。

当日の会議では、我々が想定していた通りの流れではなかったものの、1日目にヨーロッパ諸国を中心に集まり、作業文書を提出しました。2日目では政策の類似していた別のグループと交渉し、決議案を提出、ほぼ満場一致で可決することができました。

会議における課題としては、最初の流れが想定していないものであったため、うまく対応できなかったことが挙げられます。また他グループとの交渉において、自グループの外交担当同士でまとまりきれず、各々の判断で動いてしまったことも悔やまれます。今後参加する会議では最初の議論のリードの仕方などを工夫し、さらに自分たちの国の利益を確保できるようにしていきたいです。



C議場 決議案作成風景



C議場 非公式討議風景

本校卒業生福永秀蔵さんとの懇談会

2018年3月に本校を卒業し、現在はカナダのトロント大学に在籍している福永秀蔵さんが夏休みで一時帰国している中で8月20日(火)に本校に来てくれました。グローバル通信76号で福永さんをお迎えしての海外大学に関する懇談会を御紹介したのですが、夏休み直前に決まった企画でしたので事前の出欠確認も取れないままでの実施となりました。夏休み中で生徒諸君の記憶には残っておらず、福永さんには折角ご来校いただきながら誰も出席者がいないのではという不安も感じておりました。しかしながら中学1年生と高校2年生の生徒が時間通りに足を運んでくれ、熱心に質問をしてくれました。更に別の中学1年生は夏期講習と時間が重複してしまうということで、わざわざ少し早めにグローバル教育部のオフィスを訪ねて直接疑問点を聞いていました。まだ入学して日が浅い中学1年生が熱心に関心を寄せてくれたことをうれしく思っております。



8月20日の懇談会風景
右が卒業生の福永さん

夏休み中も京都の大学でインターンとしてずっと活動したそうです。生徒からの質問に体験を交えて丁寧に答え下さいました。